

平成23年度事業計画

(平成23年4月1日から平成24年3月31日)

【公益目的事業 1】

高齢社会における健康問題、経済問題、生きがいに関する調査、研究及びこれらに関する国際交流活動、並びにその成果を活用したシステム等の開発とそれに関連するサービス提供等も事業

I. 高齢社会における健康問題、経済問題、生きがいに関する調査、研究

1. 高齢社会における健康問題に関する調査・研究

(1) 介護サービスの質と管理手法の研究

1) 「利用者モニタリングの有効活用に関する研究」(平成 21～23 年度)

(福祉医療機構助成事業<厚生労働省>)

最終年度の事業総括として、QI(Quality Indicators)による質の評価の有用性を参加事業者への事後調査から検証。研究事業終了後の QI 評価の事業化についても併せて検討する。

2) 「介護保険利用者のサービス利用パターンの類型化と関連要因に関する研究」

(平成 23～24 年度文部科学省科学研究費・若手研究(B) 申請中)

介護保険サービスの典型的な利用パターンとその選択要因を検討する研究をスタートする。

3) 「介護における事故・ヒヤリハットの再発防止を支援するシステムに関する研究事業」(平成 21～23 年度)(平成 22～23 年度：三菱財団助成事業)

昨年度開発のフォーマット案を協力事業者の事例収集で検証し最終版を確定、インターネット上に事例バンクを公開する準備を行う。

(2) 介護予防政策の研究

1) 「介護予防事業のエビデンスを蓄積する自治体共同研究」(平成 22～23 年度)

昨年までの参加自治体(市川市・松戸市・新宿区・大田区)との介護予防施策の評価事業を継続。さらに、新規テーマとして「地域包括支援センターのゲートキーパー機能の向上に関する研究」を老人保健増進事業として申請し、同フィールドで研究をスタートする。

2) 「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究事業」(平成 18 年度～)

町田市シルバー人材センターとの共同研究。就業や研修および福利厚生生活動の介護予防に対する有効性を検証する。

3) 「介護予防事業評価システムの開発および調査研究」(平成 22～24 年度)

(平成 23～25 年度文部科学省科学研究費・基盤研究 申請中)

平成 19～21 年度に実施した同プロジェクトについて引き続き 3 年間継続し、長岡市介護予防事業の在宅虚弱高齢者の健康および医療経済面への効果について中長期的に包括的評価を行う。

4) 「うつ予防プログラムの効果検証事業」(平成 21～24 年度)

うつ予防プログラムによる在宅高齢者の精神的健康度の維持増進および医

療経済的効果について中長期的に包括的評価を行う。

平成 21 年度ベースライン介入群、対照群を追跡し、データの蓄積と学会発表、学術論文の執筆を行う。

5) 「うつ予防プログラムの応用および効果検証事業」(平成 22～24 年度)

(平成 23～24 年度厚生労働省科学研究費申請中)

不安、不眠の改善を図ることで、うつ予防および精神的健康度の維持増進に期することを目的に、地域在住の一般高齢者、虚弱高齢者(うつリスクあり)に対し、それぞれのうつ予防プログラムを開発・応用し、その効果検証を行う。

6) 「地域高齢者の精神的健康度の予後に関する縦断的研究」(平成 22～26 年度)

(平成 23～24 年度三菱財団助成申請中)

自殺率が高い長岡市の在宅虚弱高齢者を対象に、精神的健康度の予後について縦断的調査を行い、今後の精神保健、介護予防計画に有益な資料を提供することを目的とする。

(3) 介護従事者への教育プログラムの研究

1) 平成 22 年度港区介護サービス事業者管理者研修 (東京都港区事業)

カリキュラムに基づいて、管理者研修を港区の居宅および施設事業者の管理者 100 名に対して 3 回の講座を実施予定。

2) 「訪問介護員のキャリアパス構築に向けた追跡調査」(平成 22～23 年度)

平成 12 年から 20 年までに町田市のキャリアアップ研修に参加したホームヘルパー1,019 名の資格取得、事業所の異動、役職者への就任、離職等についての追跡調査を行い分析結果に基づき、キャリアパスへの提言をまとめる。

(4) 有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究

1) 平成 23 年度のダイヤモンドの普及活動

ダイヤモンド教室、自治体主催のイベントでの指導・紹介活動を継続。

(普及活動は「ダイヤモンドひばり会」が主体となって実施する。)

2) ダイヤモンド教室参加者対象のアンケート調査 (平成 21～23 年度)

ダイヤモンド教室参加者を対象に平成 21 年度と 22 年度に実施したアンケート調査の解析と検討を行い、同教室の有用性・課題等を明らかにする。

3) 知的障がい者への応用 (平成 21～23 年度)

3 ヶ年にわたる本研究は平成 20 年度に完了したが、成果物の有用性の検証のため平成 23 年度も継続的に訪問活動を行う。また当初から訪問活動に従事しているインストラクターの心理調査を実施する。

本活動は本年度をもって終了とする。

4) 研究会の開催と情報提供誌の発行

ダイヤモンドの指導技術向上を目的とした「第 8 回ダイヤモンド研究会」を開催し、情報提供誌「ダイヤモンドニュース」を発行(年 4 回)する。

5) ダイヤビック・インストラクター養成講座の開催

2. 高齢社会における経済に関する調査・研究

新規テーマについて検討。

3. 高齢社会における生きがいに関する調査・研究

(1) 生きがい感研究

サラリーマンの就業時から引退生活にかけての生きがい感の変化やその心理的プロセスについて、学会誌への投稿を進める。

次なる研究テーマとして、再雇用に関わる生きがい感等の心理的問題、もしくは高齢期における子供との同居・非同居の選択に関わる生きがい感等の心理的問題を取り上げ、予備的な調査を行なう。

(2) 企業退職高齢者を対象にした「いきいき高齢者づくり」のモデル事業

当財団の賛助会員会社出身の退職高齢者の集団「ダイヤ・アクティブエイジング・アソシエーション」(DAA)の親睦・交流活動や地域社会参加・貢献活動等を「いきいき高齢者づくり」のモデルと位置づけ、調査研究を行う。

(3) 「都市高齢者の社会関係周縁部に関する研究」

日常生活を通じて出会った挨拶や顔見知り程度の他者といった社会関係の周縁部に位置づけられる他者について、その実態および当該高齢者に及ぼしている影響について定量的に検証する。このため、平成19年10月から有識者と定期的に開催してきた研究会を継続し、平成24年度実施予定の大規模調査に向けての調査設計を行うと共に、理論枠組みに関する原著論文を発表する。

(4) 「中高齢者の交流媒体としての電子メールに関する研究」

高齢期の社会的孤立防止の観点から、社会関係を取り結ぶ他者たちと交流するための媒体(交流媒体)としての電子メールに焦点を当て、その利用実態を明らかにする。本年度は、シニア社会学会の高齢期のICT活用チームと連携して行ってきた調査研究の結果を元に、次年度以降に実施予定の大規模定量調査に向け調査設計を行う。

(5) 「ICT(情報通信技術)を活用した高齢期の社会活動継続に関する研究」

(平成23～25年度文部科学省科学研究費・若手研究(A)申請中)

中年期から日常生活においてインターネットを活用してきた人々が高齢化していくなかで、後期高齢期においても活動を継続していくためのICTの可能性について明らかにしていく。平成22年度日本興亜福祉財団の研究助成を受け、インターネットが一般家庭に普及した頃よりICTを使ってきた後期高齢者(ダイヤネットの会員)を対象に、日々の生活でICTの果たしている役割、ICTが使えなくなることで想定される影響等を検討する。

(6) 70歳以上高齢者の生きがい就業を促進する要因に関する研究

(平成23～25年度文部科学省科学研究費 若手研究(B)申請中)

シルバー人材センターにおいて、70歳以上高齢会員の就業を促進する要因に関